

平成24年度すぎなみ大人塾 昼・夜コース合同成果発表会

日時・平成25年3月2日(土)午後1:30から

会場・セシオン杉並 第8、9、10集会室

総合司会 中曽根社会教育主事

本日は、ようこそおいでくださいました。ここから見ると、着物やコスプレの方もいらっ
しゃいますね。最近では、卒業式で着るのが流行っているようです。みなさまが思い
出に残したい気持ち、学ぶ姿勢をみられてうれしいです。前半は、昼と夜コースの発
表会。これまで大人塾を受講した方に、今年1年の発表をしていただきます。後半は、
うしろのテーブルで交流をする場をつくっていきたいと思います。1時30分から5時と
非常に長時間となりますが、お菓子も飲み物もありますので、気楽にマイペースで参
加していただけたらと思います。資料は、本日の式次第、夜コースの発表資料、カラ
ー版の大人塾「熟してる新聞」の最終号、卒業生からの近況報告がございます。松田
さんからのアンケートもついています。お帰りまでにご記入いただいて、お渡しくださ
い。資料の中に名札がございます。テーブルの中で自己紹介をするときにも便利です
ので、ご記入いただき、見えやすい所に貼ってください。それでは、さっそくはじめてい
きたいと思います。

杉並区教育委員会事務局 生涯学習推進課長 濱 美奈子

みなさん、こんにちは、杉並区教育委員会事務局 生涯学習推進課長 濱 美奈子で
ございます。ご卒業おめでとうございます。ご卒業の方が良いかなと思いましたが、ご
卒業と言わせてください。最近の成人式でも、着物やコスプレは当たり前だそうなので、
大人塾という節目を卒業されたのかなと思います。今年度は、安藤さんのお話にはじ
まり、約10ヶ月の学びでした。皆さまが一人ひとり、テーマをもって学ばれたことを実
践していくのは、これからだと思います。私は、去年まで地域大学にいました。学長
が良く言っていたのですが、学んだことをまずは一番身近な方、あるいは近所の方に
返して下さい。次に地域の方につなげて行ってください。さらに、自分の力とするととも
に、学びとして返ってきます。みなさまの活動、学び、ご活躍を広げて行っていただ
けたらと思います。今後の活躍を楽しみにしております。

昼コース発表

だがしや学校を開こう！

～人が、地域が生き生きしていく「和」のコミュニティ学習～

昼コース司会

私たちは、松田先生の前、だがしや楽校の理念を学び、実践の場を作っていました。先生が大雪のため、到着が遅れているので、早速ですが発表していきたいと思いません。まずは、これまでの学びをふりかえります。お茶の間だがしや楽校を開き、これをもとに、出店先としてニコニコロード商店街を見学しました。店を開いたり、地域を見たりとプロデューサーとしての視点も学びました。本日は、先生から「派手な格好でPRしたら」というアドバイスをいただきましたので、店を出した当時のコスプレをしてみました。

手作りチーム

アクリルたわし、巳年のカレンダー、紙のプローチ、私の畑で採れた鷹の爪、牛乳パックで作ったコースターを売りました。



バルーンチーム

子供と触れ合うのが本当に楽しい！大人もたくさん来てくれました。孫や子供に渡したいと、多くの人に来てくれました。

ブラックシアター

「エピカ」と呼んでいます。このように光を当てて、物語を聞いてもらいます。



おりがみチーム

この大人塾をきっかけに、孫と折り紙を始めました。最初は出来ませんでしたが、今は上手になりました。折り紙だけではなく、コマ遊びなど、お年寄りから子どもまで大変楽しくすごさせていただきました。箱に入っておりますのは、バラの折り紙です。皆さまにおすそわけしたいので、ぜひお持ち帰りください。



記録

客寄せや、参加して下さった方にアンケートをして、回答をボードに貼って行きました。また、チラシを作って、近隣にまきました。

平成24年度すぎなみ大人塾 昼・夜合同発表会

昼コース司会

ニコニコロードにどれだけ効果があったのか、東高円寺のニコニコロード商店街会長さんから感想をお聞かせいただきます

ニコニコロード商店街会長

とても楽しくて、もう1回やってもらいたいという気持ちになりました。今年の納涼大会にぜひいらっしゃってください。ほんとうに楽しくて、商店街の人間が楽しんでしまって、商売にならないくらいでした。ありがとうございました。

昼コース司会

出店が終わりまして、地域でどのように関わっていくかのプランを作りました。おすそわけの気持ちも忘れないように、持ち寄りパーティーもして、それぞれのグループに分かれての活動が始まりました。

きょうりゅうクラブ

空間と時間を共有するという意味で「きょうりゅうクラブ」と名付けました。居場所作りをしたいと8名で始めた熱い思いの集団です。手芸作家、サンキャッチャーを竹で作ったりする人、マーマレードを作る人もいます。杉並では栗や夏ミカンが戦後たくさん植えられましたが、家に生っていても採られていない果物がたくさんあります。そこで、区内の夏ミカンでマーマレードを作ったのです。他のメンバーは、看護師、朗読と表現ワークのプロ、法律家、きょうりゅうクラブのなづけ親、郷土料理家です。今年は、永福町のナイトバザールにも参加します。コミュニティカフェを開きたいと思っていますので、自分店を出したい方がいれば、ご連絡ください。エピカ、手芸、マーマレード、料理、無農薬の野菜、表現とコミュニティツール、法律相談も提供します。ガーデン堀之内で6月上旬にコミュニティカフェを開きます。以上です。

だがしや楽校 物語

だがしや楽校 物語は3人で行いました。10月にお世話になったニコニコロードの取材をし、7軒のお話を聞いて、マンガにさせていただきました。また、メンバー全員にインタビューをして、合本を作っております。折り紙の、おまけつきです。3人の持ち味を活かした作品になりました。



わづくりの会

仲の良いことをモットーに、出来る人は偉ぶることなく、全てをわかちあう。そんな気持ちでやってきました。バルーンは世界に！バルーンおじさん、おばさんは、地域でふれあえるところにいて、人気を博しております。手芸、リンゴのサンタクロースなど、いろんなモノを作りました。ついつい、いき過ぎてしまう時もあるのですが、メンバーが「いいのよそれで」と言ってくださり、やさしく見守ってくれています。これが私たちの和です。そんな私たちの気持ちを歌で表したいと思います。「幸せなら手を叩こう」をみんなでお歌いましょう



昼コース司会

私たちは、学びを活かし、わかちあいました。本日の成果を得ましたが、課題や問題点も浮かびました。チームワークを実感するとともに、技の交流、環境の交流、広報力や集客力、資金調達が課題となっています。昼コースの卒業生は今後の1年間は全員で活動しようと思っています。月曜に自分店や交流の場を作り、これからも進めていきたいです。これが、いままでの1年とこれからの1年です。ご清聴、ありがとうございました。松田先生が、到着されたので、一言いただきます。

学習支援者 松田

スイマセン！東北の大吹雪で新幹線が遅れて、今の到着になりました。昼コースのみなさん、ご卒業おめでとうございます。OB、OGの方もお久しぶりです。大人がまじめに学んで何になるのか、発表してくださった方の顔と発表、そしてこれからの活動をみてくださればわかると思います。人生は長いです。だから、次の世代に残すこと。誰かに渡してあげること。今まで以上に、できることが実は多いと思います。学習支援者の私も学ばせていただきました。日本が世界に誇れる文化は、技術だけではありません。日本から、新しい生き方をどんどん出してください。やがて、皆さんの活動が世界の方にも広がっていくと思います。すばらしい発表ありがとうございました。

夜コース発表

はじめてのソーシャルアクション
～現場に学び、現場を創る！～

学習支援者 広石

みなさん、こんにちは。広石です。昼コースのみなさんのエネルギーはすごく良いですね。夜コースを担当して3年になりますが、今年の前半は地域のことを調べてみて、現場に行ってみたりしました。後半はチームに分かれての活動です。今年は5つのチームができました。実際にワークショップをやって、現場の意見を聞いて、現場を創るということをしてきました。どんなことをしてきたのかを発表していただくとともに、自分自身でどうしたいのかも語っていただきます。

シニアボイス 昭和を語ろう、残そう！

古き良き時代の風景、出来事を語り合い「記録」を残すことを目的にはじめました。参加者同士の方が語り合い、高齢者の交流と活性化を目指し、貴重な体験談や忘れられた風景などをお聞きしました。

高齢者の方と交流をして気付いたのは、みなさんがどんどん若返っていくことです。初めは遠慮しがちだったのに、話していくと元気になっていきました。昼コースのみなさんにも、負けないくらいの元気でしたよ。オリンピックを題材に話を聞き、39年の杉並区の様子、当時の思い出を話していただきました。東洋の魔女の話が盛り上がっていましたが、柔道に人気なかったのが意外でした。また、マラソンのアベベの話も出て、楽しく聞いていました。その当時の風景では、都電が38年に廃止。高架下ができたり、街の様子に次第に変化が出てきます。39年の地図を見ながら会話をしました。みなさんの貴重な話を形にしたいと思いました。参加者の感想は、大変良く、みなさん喜んでいました。ただ、人を集めるのが困りました。区報を読んでも、来ていただくまでが苦労しました。今回は、1回目の参加者の方がお友達を呼んでくれるのではと思っています。以上です。

(個人宣言)

とても有意義な体験でした。古希文集を創ろうということがありまして、とても大変でしたが、身の丈の昭和がつまった文集ができました。過去の思い出を形にしていく、語

っていくのが高齢者にとっては脳の活性化に良いのではと思い始めたのがキッカケです。私たちシニアは、語ったり、伝えることができます。でも、その場がないんです。これからも、こうした場を作って、みんなに昭和を語ってもらい、思い出してもらって、健康になっていただけたらと思います。いずれ、みなさんの声を集めた文集や記録を作りたいです。広石先生、手塚さん、事務局の皆様、ありがとうございました。

ミドルエイジ

私自身は地域でママ友というネットワークがありませんでした。町内会に入っても、年齢層が高く、地域で立ち話も見なかったです。そんな現代に、新たなネットワークを作りたいということで始めました。ヨガとお茶会を決めたのですが、180度方向性が変わったり、なかなか何をやるか決まりませんでした。ところが、話し合いの中で、私たちは同級生ということがわかって、一気に互いを隔たる壁が崩れて、お互いに打ち解けました。共通のカテゴリーがあれば、繋がると実感しました。結局、チームではオリエンテーリングと昭和ということを決め、当日は7人に参加してもらいました。タイムスケジュールがきつく、参加者の要望に答えられるか心配でした。でも、ここでも共通の話題ができるとスムーズに話げできたのです。まち歩きをして、昭和に関連したところをまわりました。地域に友達をつくる、地域での生活をより楽しくすごしたい。そんな気持ちを目指して活動しました。

(個人宣言)

活動をして、気付いたことは、素直に問題意識をもって仲間をつくることです。地域の課題は、誰かに話してみると、意外と共通している時もあります。話さないと、独りで終わってしまいます。だからこそ、素直に話してみます。そのための勇気は必要ですね。3月30日にお花見会をします。60年代に関わらず、ご参加いただけたらうれしいです。壁があっても、つながることができます。自分が感じていた悩みというのは、みなさんが感じていたことが気付きました。ワークショップの過程は、地域のコミュニケーションと同じです。最初に目標や方向性などにズレがあって、それを解消しないですすめていくと、だんだんズレは大きくなります。だから、私たちはケンカまがいになるほど、腹を割って話しました。最初は、ソーシャルアクションは難しいと思っていましたが、思い込みでした。思考の縛りです。難しく考えないで、楽しくやっていたらいいんだと思いました。社会問題があっても、誰かに頼んだり、役所に求めてばかりでしたが、無いのなら自分で作ってもよいとわかりました。今年の経験をいかして、地域のつながりレッスンというワークショップを開きたいと思います。また、シニアから学ぶ「むかし食べ物研究会」を発足したいです。2、3年以内には、「まちコン」と言って、まちを好きな人同士が出会えるような機会を作りたいです。以上です。

男の手仕事

料理男子はいるけど、縫い物男子がいたらどうかということで始めました。和裁の先生がメンバーにいたので、すぐに実行できました。針と糸と仲良くなって、何かを創ろうというのが目的です。余った布でちょっとしたものが作れたらと思いました。縫物は作るだけではなく、コミュニケーションツールのひとつになると期待しています。コースター、ブックカバー、箸カバーなどを作ったのですが、最初はみんな素人でした。波縫いからコースターを全員で作るために、先生のお手本でゲームをしました。基本的に波縫いで、全てを作れるので、参加者のみなさんは作ったものを持って帰って行きました。みなさん、針と糸に通すのも苦労していたが、ボタンつけまでできるようになりました。広石さんも、参加して下さって、とてもがんばっていました。80歳のシニアも積極的に参加してくれ、人数が少なかったが、和気あいあいでした。カーテンで袋モノ、着なくなった服でも何か作れます。地域で針仕事をとおして世代間交流ができたのは良かったと思います。ワークショップをして気付いたのは、「針仕事が身近になった。」「余った布で活用できてエコになるし、コミュニケーションができた。」「縫物ができるのは意外な自慢になる」等です。これからも、いろんなかたちでワークショップを開けたらいいなと思います。以上です。

(個人宣言)

東京に出てきて30年、両親の老いがはじまり、地域にどう関わって良いのかと思い、大人塾に参加しました。父が他界し、母が認知症になり、何をしたらいいかをずっと考えていました。気付いたことは、人間と人間の関係が大切だということです。介護は特にそうです。大人塾で、地域で自分がどう関わればよいのかということ学びました。介護福祉士に関心をもったので、これからは、群馬に帰って、資格を得るために介護関係の仕事を見つけないです。

にぎやかな沈黙

音のない世界の中で、言葉を使わなくても伝える力と受け取る力があることを体験してもらおうのが目的です。暗闇のエンターテイメントである「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を知り、音の無い世界の中でのコミュニケーションの可能性を感じたことと、聴覚障害者と出会った気づきや感動を他の人にも伝えたいと思ったのがキッカケです。共通点は全員0型です。

(個人宣言)

自分のアイデアに人が集まってくれたのが、すごく有難いです。いろんな違いがあっても、楽しさを共有できました。聞こえない人、知的障害者、見えない人。違いがあると、理解することや、伝えあうことができないと思いがちです。補助する機械が出来たり、道も舗装されてきていますが、人の心にバリアがあると思います。でも、そのバリアは解消できる可能性がある、このワークショップを通じて感じました。言葉にするのは大きな一歩だったと思います。いろんな違いがある人同士だからこそ、通じ合った時に感動があります。私は、手話を聴覚障害者からおそわりました。学校で学んだわけではなく、聴覚障害者から教えてもらいました。相手を理解するだけでなく、自分の気持ちを伝える方法でもあるので、アイスブレイクやグループワークなどに使えます。聞こえる人と聞こえない人のコミュニケーションは、パズルのようなものだと思います。ピースのかたちは違いますが、ピタッと合うところがあって、そこに感動があります。1年以内に、またワークショップをやります。地域も社会もパズルと同じだと言えたら良いなと思っています。

食と農

今日、蕎麦打ちの会があったので、ちょっと打ってまいりました。当日も蕎麦を提供しています。杉並区の農(農業、農家、農地、農作物)の現状と課題を知り、解決に向けて何かできないかと考えたことがキッカケです。

杉並には昔から住んでいたもので、杉並の農家と農地が減っていくのが残念だなと思っていました。せっかく残った杉並の空間を守っていかたいという願いを込めています。杉並産のもので料理を作りました。前半は11名の参加者の思いを聞き、養鶏家で農家の方をお招きして、リアルな声を聞いてもらいました。後半は、地産地消や都会での農業について語り合っていました。食べていたので、和気あいあいとした雰囲気でした。これからは、蕎麦定食として、広げて行きたいです。参加者の感想としては、おいしかったという声が多かったです。反省としては、テーマが盛りだくさんすぎて、一つひとつを掘り下げられませんでした。参加者が個性豊かで、農に対して熱い思いをもった方でしたので、こうした方に出会えたのは素晴らしいと思いました。また、こういう場を作っていきたいと思っています。

なによりチームのメンバーがお互いを尊敬しながら、それぞれの作業をこなしていました。このチームに参加できたのは本当によかったです。

(個人宣言)

荻窪に住んでおります。千葉県から引っ越してきた当時、ご近所に挨拶するとびっくりされたのを覚えています。たまたま、杉並区の広報をみて、大人塾の存在を知り、参加しました。自発的にコミュニケーションをとって、ポジティブな姿勢、別の角度からの考えなどを学びました。少しは地域にも参加できるようになったと思っています。広石さん、手塚さん、社教のみなさまの厳しい教育をうけ、初めてワークショップをしました。実は、広石さんの関西弁が聞きとれなくて、テープで録音して電車の中で聞いて復習していました。今は慣れています。アンケートを見ながら、当日をふりかえって、何が足りなかったか、何を進めてよいのかを考えました。これからは大人塾の経験をいかして、このイベントをもう一度開催したいです。農業と消費者のコラボをつくって、中間支援の団体や会社を作りたいですが、独りでは無理なので先輩や仲間の力を借りていきます。日々精進したいと思います。

学習支援者 広石

今回は、5つのチームに分かれました。継続したり、ぜひ仲間を作って欲しいです。後半は交流ですので、昼コースの皆さんやOB OGの皆さんと繋がってほしいです。身近で知らないこともあります。そういうことに気づくきっかけになると思います。今年は、針仕事を初めてやったり、どうしたら皆さんの学びを応援できるかと考え、自分も試されることもありました。みなさんと一緒にやってこれて本当によかったです。

今日は、昼コースのみなさん、OB OG、関係者の皆さんが集まりました。みなさんが興味があることを発表したら、みんなが良いねと集まったのです。自分で口にだすと、活動がカタチになります。声をかけて頂いただけでパワーになります。今年の経験がこれからも、どんどんつながっていくと思っています。今年の夜コースの活動は、これからも継続していきますし、発展していくと期待しています。どうもありがとうございました。

総合司会 中曽根社会教育主事

ありがとうございました。大人塾運営では、学習支援者だけではなく、アドバイザーの方にもご協力をいただきました。本日もお出でいただいておりますので、一言いただきたいと思います。

国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 笹井宏益 総括研究官

ご卒業おめでとうございます。生涯学習を担当するセクションにおいて、日本中の地域から地域の情報が集まってきます。すぎなみ大人塾は、日本で最先端のすばらしい事業だと思います。1年かけて、こんなに学び、こうして活動するなんて、なかなかできません。しかも、地域で活動し、活躍している団体を排出するなんて、これほどの事業はないです。聞くとか教えてもらうのではなく、みんなで作り出していくというのが、この大人塾のすばらしいところだと思います。「リタイアしたら地域に貢献したいのです。どうしたら良いのですか？」と聞かれることがあります。そんな時に答えるのは、地域で仲間を作ることが地域に貢献することだと答えています。そのためには、支え合い助けあいなんて言われていますが、実は人から助けられることがとても大事です。助けてもらうことで信頼し、謙虚になります。みんなで何かを作る過程で、みんなで支え合い、助け合う。みなさんは、そういう過程を経て、時間をかけて学んでこられました。気付いていないかもしれませんが、ものすごい財産を得られたのです。身に着いたこの経験を、どんどん実践していただけたらと思います。ご卒業おめでとうございます。

総合司会 中曽根社会教育主事

後半は、グループのテーブルに移って頂きます。アドバイザーの皆様もどこかのテーブルに座って下さいね。では、25分まで休憩をしてください。

ワールドカフェで交流会

グループテーマ

A「もしも、あなたが廃校利用を任されたら？」

B「もしも、あなたが総理大臣になったら？」

C「もしも、あと10日で世界が終わるなら？」

ルール

時間が来たら、他のグループに移る

気付いたこと、言いたいこと、いいなと思ったことを紙に書き込む

青いジャンパーを着た人がファシリテーター



平成24年度すぎなみ大人塾 昼・夜合同発表会

A - 1「もしも、あなたが廃校利用を任されたら？」

- ・地域ケアハウスを作る。
- ・レストランの集合を作る。地域のレストラン。デパートとは異なる。
- ・校庭を農場にして、都市農家をやってみる。
- ・行政ではなく、市民、NPO、地域が運営をする。行政のトップダウン思考では、地域にある学校を活用できない。
- ・家だけではなく、帰れる場所としての学校。避難だけではなく、日常的に寄れる場所になって欲しい。
- ・シェアハウスにしてみる。最近流行っているし、部屋が大きいのでたくさん泊まれると思う。若者に住ませたら、学びにもなるのではないだろうか。
- ・道の駅としての機能を持たせる。施設が大きいし、通りにも面しているのだから、地域内の道の駅になると思う。

B - 1「もしも、あなたが総理大臣になったら？」

- ・学校教育を改革します。先生の負担を減らし、もうすこ子ども中心の学校にしていきます。先生の役割を分担すれば、先生もやりやすくなると思います。
- ・先端技術の保護。ノーベル賞を取った技術だけではなく、日本は科学者の保護が遅れている。科学は医療ともつながるので、結果として大勢のためになる。
- ・サラリーマンの賃金アップ
- ・子ども支援の強化
- ・今の問題を明らかにする。総理大臣になるにも、今の問題を解決しないと始まらないので、どんな問題があるか、どのくらいの予算があるのかを知りたい。

C - 1「もしも、あと10日で世界が終わるなら？」

- ・自分は生き残る。世界が終わるけど、自分の終わりとは限らない。
- ・お遍路をする。やってみたいと思っていたが、キッカケがなかった。感謝をして周りた
- い。
- ・宇宙に逃げる。地球が終わりなので、宇宙に逃げしてみる。
- ・好きなように生きる。
- ・グルメ巡り。美味しいモノを世界中まわって食べたい。
- ・たくさんの人に感謝を伝える。お世話になった人々に感謝を伝えて周る日々をすごしていたら、たぶん世界が終わる時間はすぎると思う。

A - 2「もしも、あなたが廃校利用を任されたら？」

- ・青春をもう1度イベント
- ・大人塾の強化版。せっかくやってきた大人塾なのだから、もっと強化して実践できる総合施設を作りたい。
- ・民宿
- ・泊まり付き大人塾。宿泊できる大人塾をつくれれば、他の地域や外国からも学びに来られるし、私たちも地域に還元できる。
- ・同窓会ビジネス
- ・ペットの貸出、簡易動物園。ペットを飼えない人もいるので、学校に来れば飼える仕組みを作る。レンタル農地と同じシステム。
- ・敬老会館の復活。現在も高齢者施設はあるが、どうもパツとしない。姥捨てのように思えるので、もう少し明るく楽しめる施設を作りたい。

B - 2「もしも、あなたが総理大臣になったら？」

- ・首相公選制
- ・少子高齢化対策
- ・政党政治を止める。
- ・税制の不公平をなくす。
- ・年齢制度をやめる。年寄りが多すぎて、古い考えで固まっている。若い人の意見も取り入れたり、活躍の場を作っていくたい。定年をつけても良いと思う。
- ・子どもを増やしたい。子どもを安心して産める国にしたい。
- ・全員が意見を言える場所にする。政党や過去の実力だけで、本当に国のための政策を実施できないでいる。

C - 2「もしも、あと10日で世界が終わるなら？」

- ・家にずっといる。
- ・9日は食材の確保、残り1日で逃げる。
- ・何かを残す。地域、子ども、世界に自分が生きた証を残す。
- ・心を穏やかにすごしてみる
- ・あがく。ジタバタする。最後まで生きる努力をしていきたい。あきらめたくはない。
- ・10日だけ結婚する。他の人でも、同じ人でも、結婚生活をしてみたい。
- ・助けを探す。
- ・家族と旅行にでかける。

A - 3「もしも、あなたが廃校利用を任されたら？」

- ・多世代交流の場にする。多世代交流の場に特化した施設にしたい。
- ・高齢者の料理教室
- ・ラジオ体操の拠点。ラジオ体操は健康に良いので、これをいつでも実施したい。健康づくりの拠点にしたい。
- ・自由なアートの場。日本はアートを大事にしないので、芸術家が集まれる場にしたい。アートがあれば、地域も元気になる。
- ・地域活動の拠点
- ・仕事を教える場。ハローワークではなくて、生きた仕事を実際に教える場にしたい。
- ・地域のプロを育てる。仕事や資格だけではなく、地域で活躍できる人材を育てたい。
- ・避難所
- ・貸しだす。レンタルすれば、ふつうの施設よりも大きいので、収益もあるはず。

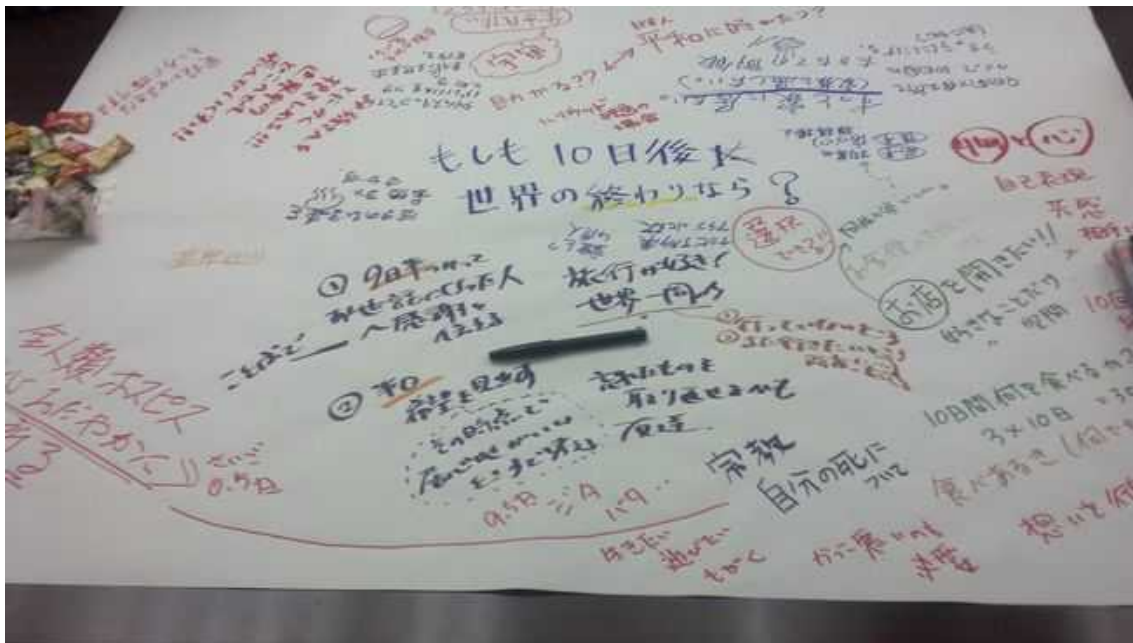
B - 3「もしも、あなたが総理大臣になったら？」

- ・文教教育に力をいれる。
- ・修身道德の強化
- ・人材発掘をする。
- ・エネルギー政策
- ・出島特区を作る。

C - 3「もしも、あと10日で世界が終わるなら？」

- ・9日使って、感謝をする。
- ・世界一周
- ・いつも通りに過ごす。
- ・孫のために生きる。
- ・贅沢をしまくる。
- ・お米をたべたい。

C「もしも、あと10日で世界が終わるなら？」



学習支援者 広石

やっぱり大人塾の関係者だけあって、廃校利用は活発な意見が交換されましたね。総理大臣になったら、世界が滅ぶならと、突飛なテーマですが、その人の人間性や考え方などを知るキッカケになると思います。以前、小さな島で地域づくりの話をしたのですが、島のみなさんはお互い知っていても、深いところまで知らない間柄でした。お互いの情報をウワサでは聞いていても、どんな考え方をするのか、どう感じるのかまでは互いに知らなかったのです。そんな時に、こういうテーマをセットして話しあうと、新しいことに気付きます。場とセットする練習をすると、他の場でも使えると思いますので、ぜひどこかで試して頂けたらと思います。みなさんと、場をセットする機会ができれば幸いです。

総合司会 中曽根社会教育主事

年度を越えて、交流をすることができました。広石さん、松田さん、ファシリテーターのみなさん、ありがとうございました。このあと、15分くらいの情報交換の場を作りたいと思いますが、大人塾連というものがあります。これは、卒業生同士の集まりで、年度単位で情報交換の場となっています。年に1日、みんなで何かをしようと大人塾まつりを行います。今年は5月11日です。集まって、発表したり、同窓会的な場になればと

平成24年度すぎなみ大人塾 昼・夜合同発表会

思っております。つながりたいなと思う方は、ぜひいらっしゃってください。
また、参加してみたい方がいれば、ご連絡下さい。800人以上の卒業生がいて、人と人のつながりが生まれると思います。最後に、アドバイザーにご挨拶をお願いいたします。



社会福祉協議会 疋田

みなさま、おつかれさまでした。ワールドカフェを地域で行って、みなさんとじっくりと話すことができました。こういう場ですと、ついつい話しすぎてしまうのですが、みなさんはちゃんと意見を聞き、また意見もきちんという姿勢ができていて流石だと思いました。コミュニティという言葉がありますが、この場もコミュニティだと思いました。一人ひとりが何が得意か、何が好きか、そういうことがわかると、相手の特徴を活かした活動ができます。実際に、みなさんは活動をされているのですから、本当に素晴らしいです。良い1年を過ごされたと感じました。近年では、行政との協働事業が進められています。1年間、みなさんがやってきたようなことを共有し、共感し、良く話してみたら、できるように思えます。時間がかかることかもしれませんが、時間がかかるからこそ一緒に何かできるのでしょうか。一緒に活動するプログラムをつくって、実践されたのは本当にすごいです。同じ地域で、共有できているのかを膝つきあわせて話をする場はありません。みなさんが体験したことを、地域に還元していただき、ますます活動をして欲しいです。本日は、気付きを与えてくれて、互いを尊重できる場に参加させていただき、ありがとうございました。私も、仕事の中で何か実践していきたいと思っております。